

6月18日

初めての一般質問

一問一答+まとめ

リニア問題-1

質問 住民への工事説明会のあり方について

答 地区の役員が中心に。道路改良などで対応。

改選後の村長の所信の中で、「リニア建設工事での工事車両の通行ルートを散らして、地元の負担の軽減を図る」と表明された。

リニア及びリニア関連建設工事は、村内で進行している。JR東海や中部電力の説明会では、ほとんどの人が初めて資料を目にして説明を受け、ほとんどの人は聞くだけ。説明する側はご理解いただけたとするが、住民にとってはよくわからない。到底受け入れられない場合が多い。意見が出ても、事前に村と協議して決めたとする。(壬生沢地区に1日250台のダンプの往来を想定する件で、さらにリニア対策委員会で区の役員が片道にして半減させることを強く要望した。)

工事業者は、過小に説明して、実際は多かった際のクレームを避けるため、最悪最大のシナリオで説明する。住民は、その数字に困惑する。過大な数字に地元住民は脅されているようなもの。こうした説明会のあり方について、村としてはどの様に考えるのか？

村長 村内の地区ごと、納得いただきにくい状況があることも承知している。引き続き負担軽減のための調整に務める。村民の皆様は非常に不安がられている。それについては、地元の区の役員が中心となってしっかりと対応していただいている。村としてもJR東海、中電に対して、少しでも村民の負担軽減につながる路線や、いろいろな道の改修をお願いしている。

コメント

説明会のありかたについての回答にはなっていない。

地元の意見を聞く前に、**JRと村が話を話し合うことがあってもそれが決定であるべきではない。**さらに、問い質していきます。

中山間地にあっては、道路の改良・拡幅・改修が地域にとってプラスであり、チャンスと大半の住民が感じている。あるいは、大事業に対する地元の着地点として認めざるを得ないとしている。しかし！広く、まっすぐな道は、交通の高速化・大量化へと道を開く。

一歩立ち止まって！その工事は本当に必要な工事なのだろうか？

リニア問題-2

質問 住民の不安解消のため、工事の全体像の開示は？

答 中部電力、JR 東海と相談の上。

説明会が開かれる村内でも限られる地区住民は、工事が始まる以前に心の負担を感じる。それは、村内のリニア建設工事の全体像が見えない、わからない不安からくるものもある。関係しない地区の方も同じ村に住む住民。誰もが工事の全体像を理解し、工事について自分事として考えられるよう、リニアが村のどこを通過して、変電所は、非常口は、明かり区間や橋脚がどこにできるなど、豊丘全図に情報を示し、村民ホールのリニア新幹線の車両のポスターの脇に掲示する。また、工事情報をリニア対策室で閲覧できるしくみはいかがか？

総務課長 中部電力、JR 東海と相談して対応する。

コメント

JR 東海や中部電力は、工事情報の開示を要求すると、『個人情報』『決定していない案件』『他言しないという条件で』等を理由に公表を拒んできた。総務課がどこまで住民目線で対応できるか、今後とも確認していきたい。

リニア問題-3

質問 土砂の流出を抑制し、将来にわたって住民が安心して暮らすために、今、どんな方策が必要と考えるか？

答 盛土の安定性と地下水の排水設備の2点。JR の機能強化で安全性を承知している。

5年前に南小学校で開かれたJRの説明会では、故森田恒夫氏が「発生土は安全で、平らな場所に処分してほしい」と発言された。本山では平らでない水が流れる上流の谷を埋める。村長の「苦渋の決断」ということだが、土砂の流出を抑制し、将来にわたって住民が安心して暮らすために、今、どんな方策が必要と考えるか？

総務課長 どの様な対策が必要か。大事な対策としては、**盛土の安定性に関わることと、地下水の排水設備、この2点が特に大事な対策**と認識している。

JR 東海も対応できる部分について機能強化し、現在の計画にまできていると説明があり、**安全性について承知している。**

コメント

総務課 リニア対策室が**安全性の承知をするとは？**『安全と判断している』のか？どう理解すべきでしょうか？

リニア問題-4

質問 本山残土置き場造成工事の安全性の検証は？

答 JRや本山地縁団体役員、関係機関と協議して内容を詰める。発生土の運搬車両が人家のある場所を通行することは、住民生活に多大な影響を及ぼす。複合的に村民の安全確保に務める。

最大盛土高さが50mで過去にあまり例のない高さ。自然界では数百万年かけて土砂が岩盤になるのに比べ、掘った土を持ってくるという軟弱さ。阪神大震災、中越沖地震や東日本大震災でも盛土で造成した道路や宅地が液状化し、崩落した。そういった事象、過去の知見から、大鹿村の鳶ヶ巣と中川村の半の沢で、3月の有識者による検討委員会では、最悪の事態を想定した対処を求めている。JR東海は、こういった知見を活かして、6月5日の説明会では、以前の造成計画よりかなり安全側の計画図面を提示したが、さらに工事の安全性と将来にわたる安全管理を明確に監視するためにも、豊丘村でもこのような専門家による検証は必要と考えるが、村長の考えは？

村長 今後行政協議で県等により検証される。詳細はJRや本山地縁団体役員、関係機関と協議して内容を詰める。

発生土の運搬車両が人家のある場所を通行することは、住民生活に多大な影響を及ぼす。複合的に村民の安全が確保できるよう、引き続き調整に務めてまいります。

コメント

一問一答の村長のルール。残土置き場の安全性の検証を問われ、『発生土の運搬車両が人家のある場所を通行することは、住民生活に多大な影響を及ぼす』と、付すことは、この問題を二の次にしていると思える。

村長自身『苦渋の決断』の結果、奥山に置けばよいということか？

(質問まとめ)

村長も議員も4年の任期だが、この間のリニア建設に係る決断は百年先の未来の豊丘村民の安全を左右するもの。村政において、リニア新幹線建設期成同盟の一員としての活動は、車で例えばアクセル。

昨今、アクセルとブレーキの踏み違いで悲惨な事故も起きているが、天災や想定外の事故といった自動ブレーキではなく、自ら踏み込むブレーキに足をかけ、慎重で将来世代の安全を見据えた思いやりのある熟慮と決断が必要だと思う。

村長の住民への視線、スタンスはもちろん、議員はもちろん私たち1人1人住民の自治力が今、試されている時代だと感じる。

質問 本山残土置き場造成計画の下流域住民への説明は？
答 必要と考える。

5年程前の平成25年10月30日付けの村長名でJR東海山田社長にあてた環境影響評価準備書に対する意見書の中に、

「発生土処分地の選定にあたっては、地権者、地元、下流域住民の合意を得た後に決定することとし、発生土処分に関わるすべての費用はJR東海において負担すること」とある。地権者である本山地縁団体とは別に、下流域住民へJRからの説明が必要か？

村長 下流域への説明ということ。そこにもそういうふう書いてあるという、それを言っているわけですね。当然だんだん具体化する中では、再度又下流域への説明があっしかるべきと思っております。

コメント

5年前の意見書の存在を認識しておられるのか？

直後の6/22日に開かれた説明会は伴野・林両区によるもので、他地区住民は傍聴のみ。6/25の全体協議会で別に説明会を求めたが、7/25開催のリニア対策委員会の場で、**広く参加を求めると村長は約束した**。しかし、有線放送では、対策委員会の傍聴を呼びかけている。傍聴者では発言権はなく、説明会とは言えない。

少なくとも、2年前に**ゆめあるて**で実施した本山残土置き場の計画説明会のスタイルで、JR東海に住民参加者が自由に意見を述べる機会が必要と感じる。

村長の考える『下流域への説明会の実施』は形だけのもの。

さらに、広く周知し、誰もが発言しやすい機会を求める必要がある。



■村道大島蛇川線

斜面上方から絶えず花崗岩の風化した砂や岩が落下している。

向かって右側の谷が『^{ほんやま}本山残土置き場』計画地の一部

この谷の林木を伐採し、130万㎡のトンネル残土を埋める計画。